

休館中のイベント情報

宮城県美術館

「高精細レプリカ名作展」

高精細レプリカの展示によって、当館を代表する高橋由一やカンディンスキーなどの名作を、身近にお楽しみいただける展覧会です。会期中には、子どもから大人まで楽しめる参加体験プログラムも開催します。ぜひご来場ください！



昨年の展示の様子(気仙沼市 はまなすの館)

【会期・会場】

in 登米	9月10日(水)～9月17日(水) 9:00～17:00 ※9月16日(火) 休館	水の里ホール・ Abebisou (登米祝祭劇場)	参加体験プログラム 9月15日(月・祝)
in 角田	9月20日(土)～9月28日(日) 9:00～17:00 ※休館日なし	かくだ田園ホール (角田市市民センター)	参加体験プログラム 9月23日(火・祝)

子どもも大人も楽しめる！参加体験プログラム

【時間】10:00～15:00 予約不要／参加費無料

「まねっこお絵描き」	お気に入りのレプリカをまねて描いてみよう！描いた後は、紙のフレームを付けてプレゼントします。
「レプリカ・クローズアップ・クイズ」	レプリカのクローズアップ部分を手掛かりに作品を探すクイズに挑戦！全問正解者には、ポストカードをプレゼント！ ※ポストカードは数に限りがあります。
「ポスターでいろいろつくろう！」	ポスターを使って、紙バッグやミニノートをつくろう！ 他にもいろいろつくれるよ。何をつくるかはあなた次第。
「レプリカの秘密&ギャラリー・トーク」	担当学芸員がレプリカの仕組みと所蔵品についてお話します。 ※13:00までに展示会場にお集まりください。

※時間内いつでも参加できます。
※混雑状況によってお待ちいただく場合があります。
※「レプリカの秘密&ギャラリー・トーク」のみ時間指定あり。

作品貸出情報

右記の展覧会に当館の所蔵作品を貸し出しています。
※休館日等詳細は各館WEBサイトなどでご確認ください。

展覧会名	会場・会期
パウル・クレー展 創造をめぐる星座	静岡市美術館 2025年6月7日(土)～8月3日(日)
小野皓一・サイトユフジ展	山形美術館 2025年10月31日(金)～11月16日(日)

まちなか美術講座

9月6日(土) 13:30～15:00	美術館と子どもたちをつなぐ —休館中の「学校アウトリーチ」事業について 講師：郷泰典(当館学芸員)
------------------------	---

【会場】東北工業大学 地域連携センター テクロビ(TECH-LOBBY)
※会場が昨年までと変更になりました。
〒980-0021 仙台市青葉区中央4-4-19 アーバンネット仙台中央ビル5階
【定員】50名(申込先着順) ※ご参加には事前申込が必要です。
【料金】無料
【申込期間】7月14日(月)10:00～ ※定員に達し次第、申込受付を終了します。
【申込方法】下記申込URLまたは右記二次元コードより申込をお願いいたします。
申込URL <https://forms.office.com/r/Em9mBTW6Vc>
【お問合せ先】東北工業大学 地域連携センター「まちなか美術講座」係
TEL:022-266-5222 E-mail:lobby@tohtech.ac.jp



宮城県美術館と東北工業大学で共催している「まちなか美術講座」。令和7年度の本講座では、休館中の教育普及事業の一環として、美術館から学校に出向き実施してきた「学校アウトリーチ」について紹介します。



「学校アウトリーチ」でのコマ

宮城県美術館ニュース(休館中限定号)

Vol.8 発行日/2025年7月31日

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>

宮城県美術館

〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 電話番号: 022-221-2111
メール: bijutu@pref.miyagi.lg.jp ファックス: 022-221-2115



この印刷物は宝くじの収益金で作成されています。

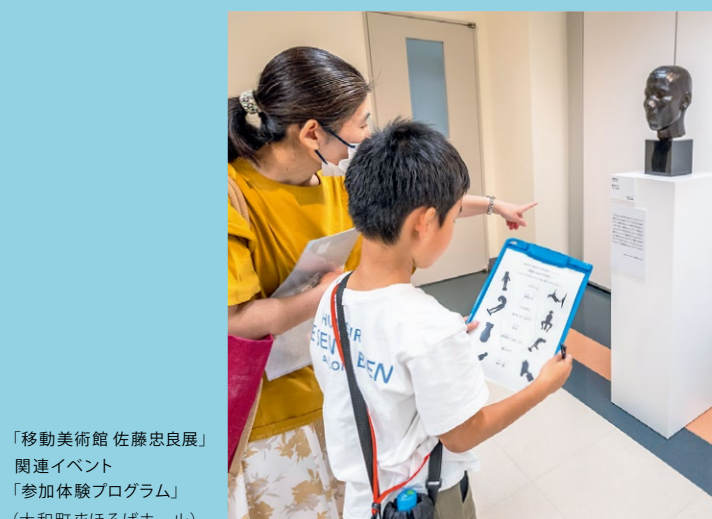
宮城県美術館ニュース

2025年7月31日発行

休館中
限定号

Vol.8

RENEWAL LETTER



「移動美術館 佐藤忠良展」
関連イベント
「参加体験プログラム」
(大和町まほろばホール)

宮城県美術館はリニューアル工事のためただいま休館中です。

思い出さるこの
お手伝い。

宮城県美術館

移動美術館 佐藤忠良展 in 大和町まほろばホール

休館中も当館の作品を楽しんでいただくために、宮城県出身の彫刻家、佐藤忠良（1912～2011）が手がけた作品や絵本の仕事を紹介する展覧会「移動美術館 佐藤忠良展」を大和町まほろばホールで開催しました。今回は6月7日(土)に関連イベントとして実施した参加体験プログラムの様子をお伝えします。

参加体験プログラムでは、佐藤忠良作品をじっくり鑑賞・体験していただけるように、子どもも大人も楽しめる4つのプログラムを用意しました。開場と同時にたくさんの方が来場し大いに賑わいました。親子で来場された方も多く、一緒に創作体験を楽しんでいました。来場者は満足いくまで集中して立体作品づくりや、鑑賞活動に取り組み、造形活動への関心が高まったようです。

ペーパー“彫刻”をつくろう！



新聞を丸めたり、包んだり、くっつけたりしながら、思い思いに作品をつくるプログラムです。また、展示作品をモチーフにした紙製スタンドや、紙を折って自立するオブジェづくりも行いました。複数の作品を集めて小さな世界を表現したり、生き物の骨格を意識した作品をつくったり、みなさん、納得いくまで取り組んでいる様子が印象的でした。

シルエットクイズに挑戦！



作品のシルエットや題名を手がかりに、展示室で作品を探してもらいました。参加者からは、「彫刻に興味をもつことができた」という感想が寄せられました。一つ一つの作品をじっくり見るきっかけになっていたようです。

ポスター“紙バッグ”をつくろう！



展覧会のポスターを再利用して、立体的な紙バッグづくりに挑戦してもらいました。大人も子どもも、ポスターの絵柄のどこがどの部分になるのか考えながら、熱心につくっていました。最後には「気に入った!」と満足気に話す参加者がたくさんいらっしゃいました。

タッチ&ギャラリー・トーク
～さわるともっと見えてくる!?～

当館の収蔵作家である佐藤忠良は、彫刻は「触覚の芸術」であるとの考えから、自身が制作した彫刻を手で触れて鑑賞してもらいたいとの想いをもっていました。そこで、今回はギャラリー・トークに作品に触れて鑑賞する時間を取り入れた「タッチ&ギャラリー・トーク」を実施しました。参加者は9名（内、視覚に障害のある方3名）。

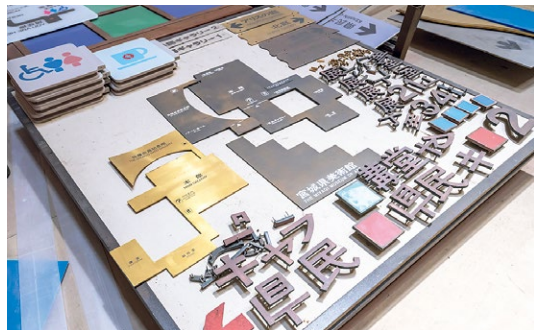
はじめに、指輪や時計などの装飾品を外してもらい、手洗いをした触る準備をした後、展示室へ移動し、全部で6体の作品（頭像、全身像など）に触れながら鑑賞してもらいました。視覚に障害のある方は、作品で表現されている性別や年齢、衣服、身体の形（ポーズ）などを手触りから想像してくれ、作品が持つ細かな表現を感じ取ってくださいました。見える方、見えにくい方それぞれの体験を共有することで、互いに作品の見方が広がった一日となりました。

（教育普及部 郷泰典 小池郁江）

工事進捗紹介



前庭や北庭階段の古いタイルが剥がされ、新たなタイルを貼るための下地整備が進んでいます。



長年使用してきた案内図やサインが取り外され、新たなサインのデザインや設置場所について検討しています。

リニューアルに
むけて改修工事が
着々と進行中!!

佐藤忠良遺贈資料を
整理しています

休館中も学芸員の調査研究は続きます。私にとって、佐藤忠良先生のアトリエに残された資料の整理は、初任の2014年から他の仕事とあわせてコツコツと行っている仕事です。

美術作品についてはブロンズ作品や石膏原型のほか、佐藤先生が手がけた素描、版画作品、絵本や紙芝居の原画などを登録しました。最近は、佐藤先生の旧蔵書、新聞の切り抜き、展覧会の広報物といった公刊資料から、写真などの未公開資料の台帳化を行っています。

佐藤先生の旧蔵書には、ご自身の著述や作品が掲載されているものや、古今東西の美術に関する本が膨大にあります。このほか、辞書や図鑑、北海道のこと、戦争やシベリア抑留のこと、交友があった文筆家たちの著書、そして、愛娘である俳優、佐藤オリエさんに関する資料などが含まれており、整理をすすめるうちに、佐藤先生の頭の中をのぞいているような気がしてきます。

こうした資料の整理によって、既に収蔵されている作品の謎が解けることもあります。例えば、おそらく何らかの挿絵の原画として1998年度に収蔵された水彩画が『北海タイムス』で連載されていた更科源蔵の「移住者の原野」の挿絵であることがわかりました。遺贈資料の中に新聞の切り抜きが一式残されていたのです。「なるほど、北海道の出版社と関わりがあったのか」と



佐藤忠良《「移住者の原野」挿絵》1985年頃 紙、鉛筆・水彩・色鉛筆

いう気づきから、他の挿絵原画についても、何の挿絵であるかが判明したものがあります。

この先も資料の整理をすすめるうちに、さまざまな発見があるかもしれません。（学芸部 赤間和美）

県内野外彫刻紹介
もうひとつの伊達政宗像

県内にはさまざまな野外彫刻が設置されています。今回ご紹介する場所は大崎市岩出山。仙台城を築く前の若き伊達政宗が居城とした岩出山城があった場所です。その城跡には白く大きな人物像が立っています。本体だけで4メートルを超すこの像は、佐藤忠良らとともに戦後の具象彫刻を牽引した彫刻家・柳原義達によって作られた伊達政宗の像なのです。野外に設置されている政宗の彫刻とえば、仙台城の騎馬像がよく知られていますが、実は岩出山の政宗像はこの騎馬像と浅からぬ関係にありました。

現在の騎馬像は、実は仙台城の伊達政宗像としては3代目のもの。初代となる騎馬像は昭和10年に設置されたのですが、戦時中の金属類回収令によって供出されてしまいます（後に上半身のみが発見され、現在仙臺緑彩館前に設置されています）。終戦後、仙台城には空のままの台座が残されていましたが、昭和28年になって、柳原による本像が2代目の政宗像として立つこととなりました。白い色はその素材である白色セメントによるもので、彫刻の新素材として当時積極的な使用が試みられていました。

その後、初代騎馬像の石膏原型をもとにして、再び騎馬像が

鋳造されることになり、本像はその台座を譲って、政宗ゆかりの地である岩出山を新たな居場所としたのでした。昭和39年、今から約60年前のことで、武者行列で知られる「政宗公まつり」はこの像の移設を契機として始められたものです。史実とは逆に仙台から岩出山への移動というちょっと変わった経験をしたこの政宗像は、岩出山の城跡から静かに街を見下ろしています。

（学芸部 土生和彦）



柳原義達《伊達政宗立像》（筆者撮影）